

「第 29 回非正規ではたらく仲間の全国交流集会 in 愛知」アピール（案）

今日、私たちは「非正規差別 NG」を合言葉に、全国各地から愛知県に結集しました。

非正規雇用の拡大は、不安定な働き方と低すぎる賃金を公務職場にまで広げ、正規雇用に対しても賃金を強く抑制し、長時間かつ無限定な働き方を強いる結果が生み出されてきました。本集会では、そうした現状を共有し、「公正」な賃金と雇用を求めて、企業や職種や地域を超えて、非正規も正規も多様な労働者と連帯してたたかう決意を固めました。

職場の中にも、社会の中にも差別的な構造と現実が蔓延しています。いまの状況が「公正」だといえるのか。私たち労働組合は、壁をつくる側に立つのではなく、壁を取り払っていくことにこそ役割が求められています。壁を取り払い、問題を解決していく力を生み出すには、職場の中に重くのしかかっている「あきらめ」や「閉塞感」を押しよくすることです。そのためには「変わる！変えられる！」という希望・展望を共有することが大切であることを再度、確認しました。

本集会では、無期雇用転換の促進、パート・有期雇用労働法の活用による均等・均衡待遇の改善の具体例として、「同一労働・同一賃金の課題で、学習会や職場討議などを重ね、仲間を増やしながら要求前進を勝ち取った山梨県医労連の仲間のたたかい」や「2021 年春闘で均等待遇、格差是正を要求し、多くの単組で休暇制度や手当等の前進回答を勝ちとった生協労連のたたかい」など、労働組合のたたかいによって実現した成果が報告され、多くの人たちが力と希望を共有しました。コロナ禍で、真っ先に影響を受けたのが非正規雇用労働者であり、SOSを受け止めた労働組合が雇用や賃金を保障させるために活躍し、休業補償制度の改善・拡充を実現させる大きな力となったことを共有しました。

正規と非正規、若手とベテラン、ジェンダー、民間と公務、大企業と中小企業など、労働者同士が競争して反目すればするほど、自己責任や企業内主義に陥れば陥るほど、財界はいっそう利益をあげ、労働者の雇用と暮らしはいっそう悪化していくことは、この30年の歴史が証明しています。削るべきは労働者の賃金ではなく大企業がため込む内部留保であり、守るべきは大企業の莫大な利益ではなく労働者の生活・命と健康です。

非正規雇用でも結婚できる、子育てできる社会保障制度の拡充など、誰もが、どこに住んでいても安心・安全に暮らしていくためには、大企業・富裕層の応分な負担と公正な富の再分配が必要です。誰もが尊厳を持って人間らしく生存権が保障される公正な賃金と雇用を求めます。地域経済の活性化と持続可能な社会を求め公正な取引環境を求めます。

非正規・ジェンダー差別 NG！コロナ禍だからこそ公正な社会を！

すべての職場で、地域で、非正規差別 NG の運動を大きくつくりましょう。

2021 年 6 月 5 日
全労連非正規センター